



高原地帯の広域農業開発事業

大規模畜産基地の建設をめざして

一、まえがき

阿蘇山麓の高原地帯を我が国の食糧供給基地とするため大規模な畜産基地の建設をめざしている広域農業開発事業は、すでに地域全体の基礎調査を終り、年次計画による区域ごとの開発基本計画の策定を行ってまいりましたが、いよいよ昭和五十年から阿蘇南部区域を先発区域として、農用地開発公団による牧場の建設工事が着工されることになり、さる十月二十八日に高森町の現地做起工式が行われ、高原地帯開発の実現へ向って動きだしました。

この事業は、国民の食糧の安定確保をめざし、国の重点、県の主軸事業として、関係の市町村、農業団体等が一体となり、推進しているものであります。この種の開発は全国で四ヶ所、九州では本県の阿蘇山麓高原地帯と大分県の久住飯田地区が「阿蘇久住飯田地域」として

て実施しています。今回は、阿蘇南部区域の建設工事の着工を機会に高原地帯の農業開発として進めている広域農業開発事業のあらましを紹介いたします。

二、事業のあらまし

(一) 開発の目的

阿蘇山を中心とした高原地帯に所在する低利用、未利用の山林原野を牧草主体の優良草地に開発して、営農集団ごとに近代的経営施設を整備した肉用牛の共同利用牧場の建設を行い、その高度活用を通じて、生産性の高い農家経営群を育成し、これを中核とした濃密な肉用牛生産団地を区域ごとに創設するとともに、区域相互間の生産流通に関する基幹的諸施設を整備した大規模畜産基地を建設します。

(二) 開発対象市町村

菊池市
菊池郡……旭志村、大津町
阿蘇郡……一の宮町、阿蘇町、南小国町、小国町、産山村、波野村、蘇陽町、高森町、白水村、久木野

村、長陽村、西原村
上益城郡……御船町、矢部町、清和村

十分助案して表1のような計画を策定しており、肉用牛の粗飼料基盤として、原則的に傾斜度零〜二十度未満のところは機械工法による草地造成を行い、二十〜二十五度未満のところは粗耕法又は火入直播法による簡易草地の造成を行うとともに、二十五〜三十五度未満のところは現状の野草地のまま活用することにした。また牧野林地並びに施設用地（農道を含む）としてそれぞれ用地を確保し、岩地、湿地等は除地として計上しました。

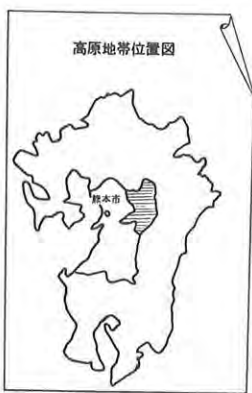
(三) 開発計画

(ア) 開発対象地等

高原地帯に所在する低利用、未利用の山林原野のうち、開発対象面積は八千七百ヘクタールであって、これに係る土地所有状況はその八二パーセントが市町村有又は部落共有の入会地（部落の人々が共同で管理し、利用しているもの）であり、開発地に関係する農家は約三千五百戸が見込まれています。

(イ) 土地利用計画

開発地に係る土地利用は土地条件等を



(ウ) 営農計画

慣行の夏山冬里飼養方法（夏期は草地放牧、冬期は舎飼い）を踏襲した営農を基本方向として、開発により新設された共同利用牧場の高度活用を通じて、事業受益農家の規模拡大を行うと共に、営農集団の中核となる飼養規模十五〜二十頭の肉用牛飼養農家の育成を図っていきます。なお、本事業の推進により現況開発対象地において飼養されている肉用牛（成牛）は表2のように約一・八倍の増加が見込まれています。

(エ) 事業計画

事業は近代的な畜産経営に必要とされる（一）農用地等造成事業として、農用地（草地）造成、道路並びに営農用水の新設改良並びに（二）農用地施設整備事業として

農業近代化資金を含む

(オ) 事業費

総額百六十五億円（昭和五十年単価）が見込まれており、この内訳は農用地等造成事業が百二十六億円、農用地施設整備事業が二十六億円、農機具等導入事業（家畜は農協有等を除く）が十三億円であり、道路整備費が全体の七〇パーセントと大きなウェイトを占めることになりました。

(カ) 開発スケジュール

開発規模の関係等から高原地帯を四区域に分割し、区域ごとの年次計画により開発を進めることにしていますが、区域ごとの開発スケジュールは次のとおりです。

阿蘇南部区域（49年度）	50年度着工	54年度完了予定
阿蘇中央区域（50〃）	51〃	55〃
北阿蘇菊池区域（51〃）	52〃	56〃
矢部郷区域（53〃）	54〃	58〃

三、むすび

以上が広域農業開発事業のあらましですが、完成のあかつきには高原地帯は我が国の食糧供給基地として国民の要望にこたえるばかりでなく、大草原にむれぬ牛群は牧歌的風物をかもしだし、県民の憩いの場ともなり、この事業の実現化が期待されています。

広域農業開発事業の起工に際して

阿蘇郡白水村長

山室 忍

地域住民が久しく待ち望んでいた、阿蘇南部区域広域農業開発事業の起工式が五月十日二十八日に行われた、このことの一日も早いことをと念じていた関係者の一人としては、喜びひとしおのものがあった。

思えば四十四年に新全総計画で九州わが国の食糧基地として位置づけ農林省が畜産物の安定供給をはかるための畜産基地づくりを阿蘇を中心とした本県高原地帯を広域農業総合開発調査地域に指定したのもその年であった。

阿蘇に住む私たちは、常々広々とした原野の効率的利用について大きな夢をもちつづけてきた、それだからといって地域住民自らの手で開発の鞭を打ちこむは余りにも相手が巨大すぎる、草場があるから牛を飼う時代は昔のこと、乳や

農用地開発公団が総合的に一体的に実施します。この事業の主たる事業項目並びに事業量は次のとおりです。

◎牧場建設数……九十
◎農用地（草地）造成面積……四千五百ヘクタール

肉をつくるために草地の活用を考えなければならぬ時だっただけに、その指定については、大きな期待をかけた。あれから六年、その間、どうなることかと心配したこともあったが、先発地域として五十年度着工の朗報を聞いたときは、喜びひとしおのものがあった。

ここまでのみちのり、ほんとうにたくさんのお力添えをいただいた。いま私たちが、その人たちに深く感謝すると同時に、大きな使命を負わされていることを忘れてはならない。

農業を畜産をとりまく諸情勢はいまなおきびしいものがある。そのようなときではあるが、今や昔ながらの阿蘇の原野が大きな力によっていよいよ衣替えをして新しく装おうとしている。私たちもそれにおくれをとらないための体質改善が急務だ。

数年後開発された原野に群をなす牛、大型農機具の快音、農業に誇りをもち、生き甲斐を感じる若人の舗装された牧道を往来する真剣な眼差しを画きながら事業の円滑なる進捗と目的の達成を祈念してやまない。

表1 土地利用計画

区分	改良草地			野草地	牧野地	施設等敷	除地等	合計
	機械造成	簡易造成	小計					
面積	2,300	2,200	4,500	3,700	200	170	130	8,700

表2 家畜飼養生産計画

区分	現況	開発後の飼養生産計画				成牛伸率
	成牛	成牛	育成牛	子牛	計	
頭数	9,000	16,300	2,500	13,900	32,700	1.8倍